

<様式 1 >

令和 2 年度 さいたま市立土合中学校 自己評価書

校長 吉田 賀一 印

1 学校で設定した「令和 2 年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 新しいたま市の授業づくりを基に授業改善、指導方法の工夫に努め、学ぶ楽しさ、分かる喜びを味わえる授業を展開し、基礎学力の向上を図る。
- (2) 不登校数減少を目指し、積極的で繊細な生徒指導、教育相談を組織的に展開する。
- (3) いじめ未然防止のため、全教育活動を通して「いじめをしない、許さない」資質を育む。また、「いじめ撲滅強化月間」の取組を通して、いじめ撲滅に向けたスローガンを生徒と教員がそれぞれ作成する。
- (4) 本校における働き方改革を進めるために、教職員の勤務時間短縮に向けて複数の施策を立案し、教職員が心身ともに健康な状態で生徒と向き合えるようにする。

2 評価結果について

- ・「よい授業」のアンケートを実施し、授業についての振り返りを行った。また、全ての教員が公開授業を行い、学年や教科の枠を越えて教科や道徳の授業を見せ合う機会を設けた。
- ・学校評価アンケートで「学校生活が楽しい」と答えた生徒が全学年で約 95%となり、特別支援学級においては 100%の数値を得た。ステップアップルームが軌道に乗り、不登校生徒が学校とつながる流れができた。
- ・いじめについて積極的な認知を心掛けた。初期対応の重要性を認識し、報告、連絡、相談、見届けを迅速かつ丁寧に行ったことにより、大きな事案に発展することなく解決している。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、生徒とともに教職員の健康を維持するよう留意した。分散登校中は教頭が玄関鍵の管理をし、全員が定時退勤をするようにした。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- ・次年度は各教科の評価項目が大きく変更されるため、「よい授業」の研究とともに、評価方法についての研修を深めていく必要がある。
- ・ステップアップルームの生徒が教室と関わる意識をもたせるため、担任がより積極的に本人とコミュニケーションをとるよう促していく。
- ・全教職員が、本校のいじめ防止基本方針内容について熟知しておく必要がある。いじめ問題については、保護者、地域、学校がそれぞれの役割について共通理解を図り、撲滅に努める。
- ・働き方改革については、「No 残業 Day」や「My 定時退勤日」といった取組を、管理職が率先垂範し、教職員の健康維持、増進をより促す必要がある。

※ A4判1枚程度に簡潔にまとめる。教育委員会に写しを提出する。